



## 自慢の野菜を届けるために 将来の夢を描いて

ねぎ経営 北野町 小坪 美穂 さん (25歳)

### 後継を意識して就農

農業が盛んな久留米市内でも、20代女性の農業者は非常に少ないのが現状です。野菜農家である祖父母や両親を見て育った小坪美穂さんは、福岡県農業大学校を卒業後、1年間の民間企業での経験を経て就農しました。

「祖父や父が築いてきた農業経営を父の代で終わらせたくないと思っていました。」と語る美穂さん。様々な経験をした後、30歳代で就農しようと考えていましたが、祖父母が高齢になったこともあり、家の農業を支えたいと考えるようになり、21歳で就農を決意しました。

### 自分の役割を果たす

美穂さんは、両親や9名の従業員とともに、240アールのハウスで小ねぎの周年栽培を行っています。「体を動かすことが好きで、楽しく仕事をしている。農作業を辛いと感じることはない。」という美穂さん。現在は、主に収穫・出荷作業を担当しており、自分の役割を果たしながら、両親の栽培技術を受け継ぐために、日々努力しています。

### 多くの人に野菜を届けたい

「自分の作った野菜を食べた人が『美味しい』と喜んでくれることが何より嬉しい。」と話す美穂さん。

今後は、「生産を休止しているみぶ菜の復活に加え、消費者との交流イベントの企画や飲食店等への営業など、ニーズを捉えたマーケティングを行いたい。」と夢を語ります。後継者として、そして自慢の野菜を多くの消費者に届けるために、将来の農業経営を描きながら頑張っています。

